

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000513		
法人名	特定非営利活動法人 あおぞらの会		
事業所名	グループホームあおぞら	ユニット名	1号棟
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北15245-2		
自己評価作成日	令和2年1月10日	評価結果市町村受理日	令和2年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和2年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、平成29年3月に現在の地区に引っ越しして参りましたが、環境の変化にも慣れて来ており、落ち着いた空気が流れる様になってきました。現在では、施設敷地内の畑では、栗や芋や柿などを栽培しており、年中四季を感じる事ができ、収穫などする事で体感で感じて楽しく過ごしています。地域のサロンに入居者の方と参加する事が、年に1回ではありますが当ホームを地域の方達との交流場として利用して頂き、レクリエーションや食事などの時間を大切にしています。施設理念にある、『笑顔いっぱい 大家族』を大切にしながら、入居者の方一人ひとりの個性や気持ちや願いなどをくみ取りながら日々のケアに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者及び職員は、利用者が地域の中で暮らし続けられるよう、地域住民との交流に取り組んでいる。地域の高齢者が行方不明になった時には心配した利用者と一緒に探しに行ったり、町の徘徊者捜索訓練では職員自ら徘徊者役を申し出るなど地域貢献につなげている。高齢化に伴い買い物支援が難しくなっているが、家族からの提案で週1回移動販売車が来るようになり、利用者の楽しみとなっている。職員は利用者から生活の知恵を教えてもらうなど、持ちつ持たれつとの関係性が築かれている。管理者と職員は笑顔の暮らしを支えるため、利用者それぞれの長所を見つけ、主体性が発揮できるような支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、皆が目につく所に置き、職員全体で理解して実践している。気になる事は、職員会議にて話し合っている。		利用者は自分の父母、祖父母と同じ大切な存在との思いを職員全員で共有している。一人ひとりが笑顔で過ごせるよう、利用者本位のケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域サロンへの定期的な参加、そして町内の行事などに参加して交流を可能な限り継続できている。		自治会に加入し、地域との交流に取り組んでいる。ホームで開催される交流会で、昼食を参加者が利用者とともに作るなど、地域の一員として交流するよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、当ホームにて認知症サポーター養成講座を開催し、地域の方々にも参加して頂き、地域の方そして職員含め認知症に対して知識を深める機会になった。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施できおり、参加者からの助言など頂き、次回への取り組みに生かしている。		運営推進会議の目的や意義について、改めて話し合いをしたところ、推進委員の理解も深まりホームの資質向上につながる意見が出るようになった。家族代表も毎回2名ずつ交代で、全家族が参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、意見を伺うなどして、サービスの向上に努めています。また、困り事などある時には、相談もでき助言も頂いている。		ホームと地域との交流会の提案があったり、研修会等の情報や案内等を得ている。ホームの行事にも担当者以外の職員も参加するなど協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会に参加して取得した知識を持ち帰り職員会議で情報共有を行い、身体拘束への理解を深めている。		研修に参加した職員が講師となり、職員会等で勉強会を行っている。尊厳を持ったケアを職員全員で共有し実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修勉強会に参加して、何があっても虐待は許されない行為だと理解する事によって、日々のケアにおいて十分な注意を持ち、日々のケアの中での疑問点などは、その度は話し合っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が、職場に持ち帰り職員会議で勉強会を開き学ぶ機会を設けている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、入居者様や御家族を交え十分な説明の上、理解そして納得を得られるように努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が面会に来られた時または、お電話等で要望や意見等がないか、声掛けさせて頂き、要望や意見が出た際には、職員一緒になって考え、支援に反映するよう繋げている。	利用者は日々の暮らしの中で、家族からは面会時や家族会の時、また運営推進会議で、意見や要望等を聞き、それらの意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案をその度伺う機会を設け、職員会議や申し送り等で話し合い検討し、必要に応じて反映している。	一つの課題に対して職員一人ひとりが様々な意見を出し合い、職員会議等で全員で話し合い、運営に反映させるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境、そしてやりがいがある様に必要に応じた対策を取り、職場の環境整備をしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域で開催されている研修などに参加して頂き、職員一人ひとりにあった研修を告知して参加して学ぶ機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の方々との交流を大事にしてお互いの情報を共有、そしてお互いに協力する事ができている。日々のケアの向上のヒントが得られている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いつでも当ホームに来て頂き、日頃の様子にふれあえる時間を多く確保できており。不安や要望はその度受け入れ、対応している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の方々からの不安や要望を引出し、少しでも改善できるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する前に御家族や入居者の方の話を伺う機会を設け当ホームでの生活が適切なのか？そして入居のタイミングが今なのか？多方面で考え、お互いに話し合いの上で、サービスの導入をしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人を中心に考え、御家族や職員を交えて、お互いを支え合い、協力して楽しみながら生活を築いてる。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子や健康状態をその都度御家族に報告して、御家族と共に、入居者の方の支援を維持できるよう関係性を保っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当ホームで気持ち良く面会ができる環境を整え、大切な時間が確保できるように努めている。入居者の要望によっては、当ホームを出て馴染みの人や親戚の方々へ会いに行く機会がある。	近隣の人や友人、知人が来訪したり、地域の祭りや花見遠足、墓参りなどに出かけるなど、本人の馴染みの人や場所への関係が継続できるよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの過去や背景などを知る事によって、同じ境遇や同じ趣味などで関係性を繋げる工夫をしている。孤立が目立つ時には、さり気なく職員が介入して入居者同士の良好な関係に繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、本人・家族に対して現状に対するフォローや相談または助言など対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活をする中で、入居者の方の行動や表情または、言葉を見落とさずに組み上げ、本人の立場に立って考える様に努めている。		利用者それぞれの個性を尊重し、言葉や表情の変化を受け止めている。また、個室や入浴中など、それぞれが話しやすい状況を職員間で共有し、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人の日々の会話の中から生活歴や生活スタイルなどの情報を得たり、御家族から情報を頂いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の記録や介護支援経過を活用して一人ひとりの1日の過ごし方の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人そして御家族と共に意見や要望を聞きカンファレンスにも参加して頂く機会を設けて皆さんで介護計画作成に取り組んでいる。		担当者を中心に職員の気づきを課題に挙げ、定期的にモニタリングを行っている。ケアマネジャーや看護師も専門的な立場でカンファレンスを行い、家族の意見も反映した計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月1回各職員が各担当者のモニタリングを行い、職員会議では、担当者以外の方からの気づきなども聞き取り、介護計画の見直しに活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の方一人ひとりに応じたサービスを実施できており、その中には結婚式に参加する際の食事の工夫の仕方や化粧の手伝いなど、参加する事への取り組みを御本人、御家族、職員で協力する事が出来た。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方が定期的に来訪してくれている。(散髪をしてくれたり、保育園児の催し)など楽しみの1つとなっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人・御家族が要望している医療機関を利用している。定期的な受診では、協力医療機関を利用し、(細かな変化や不安事の報告を行い)急変時の対応などの時には、速やかに医療が受けられるように支援している。	利用者の多くが協力医をかかりつけ医としている。受診は家族が対応しているが、時には職員が同行支援している。協力医療機関から定期的に管理栄養士が訪問し栄養面での充実を図るなど、安心できる体制づくりに努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中・夜勤問わず、バイタルや気づきを看護職に報告し、その時の状態に合ったケアまたは受診出来るように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、適切な治療が出来るよう情報を提供している。定期受診の時も、日頃の状態を相談できるよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関を交えて、御本人・御家族の思いを尊重し、十分な話し合いを行っている。	利用者の状態変化に応じて関係者での話し合いは行っているが、それぞれの立場において、支援の方向性を統一するには至っておらず、方針の共有が不十分である。	終末ケアに向けて、家族の意向や、医療機関との連携、ホームで出来る支援等、関係者で方針を共有するためにも、ホームとしての指針を作成し、かつ明文化することに期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得てAEDの勉強会、看護職員による勉強会を定期的に行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や初期消火での手順の訓練をしており、常日頃から災害時のシミュレーションを行い、口頭でのシミュレーションを整理をする事もある。御家族や民生員、地域の方に協力をお願いしている現状です。	夜間想定を含め、主に火災時の防災訓練を定期的に行い、地区の総合訓練にも利用者と一緒に参加している。また、非常食、飲料水など防災用備蓄をするなど災害対策に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御本人の気持ちを大切に、一人ひとりの方に対しての最適声かけの情報を職員同士で共有して対応している。		利用者や来訪する家族等に不快感を与えないように言葉かけについて研修を行い、配慮した言葉かけや態度ができるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活する中で、御本人の希望や思いを傾聴する時間が確保できており、実現できる様に御本人、御家族、職員で取り組んでいる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特別に決まった日程などはないが、その日に何をして過そうか…などと雑談の中で出てくる事があるので思いをくみ取り、ご本人主体で過ごして頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などの決定は、御本人に行ってもらい身だしなみ、髪を整えたり、お化粧を行う際には、楽しみが継続できる様に職員が介入して支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に料理の日を設けて、御入居者の方達と食べたい物や食べてみたい物などを、四季に応じた食べ物などを皆さんで作って食べる楽しみの支援をしている。		ホームで収穫した野菜や果物、移動販売で購入した食材を使い、職員と一緒に保存食を作ったり、調理をしている。利用者の希望の献立をみんなで作るなど、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事形態で提供しており、御本人が安心して自力摂取できる様に工夫をしている。摂取量や水分量など数値化して記録に記載している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアが実施できており義歯の消毒も夜間帯に行い、朝には清潔な義歯で過ごして頂いています。御本人が、しっかり水を吐き出せる方には、うがい時に口腔消毒液を使用している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御本人の排泄パターン、しぐさ、表情、行動を把握して、排泄の失敗を減らす為に取り組んでいる。		日中は布または紙パンツで過ごしており、個々に合わせたパットを使用している。排せつパターンを職員が共有し、適時に声掛けし、排せつの自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	細めな水分補給を行い、毎日乳製品を取り入れている。また、排便に繋がる食べ物などを個別に取り入れる事ができている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前、かならず声かけて伺い、御本人の希望に沿えるパターンで入浴実施しており、四季が感じられる様に、ゆず風呂など提供する日もある。		本人の希望を尊重した入浴支援をしている。安全に気持ち良く浴槽に入れるよう機械浴での支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の望む、パターンや時間で自由に休息して頂き、ゆっくり過ごして頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当日の薬のセットは、全職員が目で見分ける様に、クリアケースにセットして、投薬時には2人で確認し与薬している。入居者の持病や薬の効能の勉強会も随時実施している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人一人ひとりに合わせて家事手伝いなど(床拭き、手すり拭き、食器洗いなど)その日の気分に合わせて行っている。「仕事くれて、ありがとう…」って生き生きと取り組まれている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時には、外に散歩に出掛けたり、地域にある神社や御本人が気になる場所へ行き、外に行く意欲が継続できる様に楽しむ時間を増やしている。		地域内に道の駅、神社、レストラン、公園等があり、気候に合わせて希望の場所へ出かけている。ホームの敷地内には菜園や果樹園があり、散歩がてら、収穫や季節の移り変わりを楽しむなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2週間に1回訪問販売が来られるので、自分の財布より支払い、好みのパンを購入できるよう支援している。時には、職員と一緒に近くのスーパーに買い物に行く事がある。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を、御本人と職員で一緒に作成している。また必要に応じて電話や手紙などで対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間等には、季節を感じられる作品などを製作して飾っている。冷房や暖房などの温度や風の強さなどで不快感を感じないように努めている。		温度、湿度は快適な生活環境が保てるよう細かく調整を行い、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中フロアで過ごして頂く時には、一人ひとりに合った場所や(テレビからの距離や外の風景など)、入居者同士の関係にも配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた、タンスや机などを、居室に持ち込まれ、その人らしく安心して過ごして頂ける様に配慮している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当ホームで生活する中で、御本人ができる事はして頂きながら「できる事」「わかること」を維持して自立した生活への支援を継続しています。			